

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立因北小学校	校長氏名	早間 貴之	生徒指導主事氏名	脇本 賢一
取組事例名 『そうじのプロ』					
取組のねらい『キーワード 達成感』					
<ul style="list-style-type: none"> ・黙って掃除をすることの意義を考えさせ、一生懸命掃除をしようとする態度を育てる。 ・きれいになった喜びや達成感、集団としての協調や連帯を経験させる。 					
取組の具体的内容『キーワード 評価』					
<ul style="list-style-type: none"> ・担任は学級が担当する掃除場所を見回り、全員が黙って掃除しているグループに「そうじがんばりカード」を渡し、がんばり一覧表に貼らせる。また、児童の掃除の様子をよりの確に把握するために、「そうじがんばりカード」にがんばり具合でポイントを変えた（2点・1点）。 ・学校長と教頭も評価をして回った（ポイントは3点とした）。 ・黙って掃除をしているグループの様子を学級で紹介し、学級全体の意欲を高める。 ・掃除後、相互評価で掃除の反省を行い、次の日につなげる。 ・各学級から「そうじのプロ」を選出し、掃除のプロを見習わせる。 					
取組の課題・創意工夫『キーワード 意欲』					
創意工夫					
<ul style="list-style-type: none"> ・がんばり具合によってポイントを変えることで、児童の意欲を高めることに繋がった。 ・期間終了後、全員が掃除しているグループをそれぞれの学級で表彰した。また、全校朝会のときに、各学級から選出された「そうじのプロ」を紹介・表彰し、右図のような認定証を渡した。グループと個人の両方を表彰することで、児童の意欲を高めることに繋がった。 					
取組の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・「そうじのプロ」の取組以降、プロに認定された児童を模範とする場が不足していること。 ・「黙ってそうじをする」ことを続けられるようにしたい。手立ての一つとして、掃除時間中に、職員がこまめに声をかけたり指導したりする。 ・できていると感じている児童の自己肯定感を高めるとともに、できていないと感じている児童への指導を一層充実させること。 					
取組の成果（効果）『キーワード 意識の向上』					
<ul style="list-style-type: none"> ・取組前よりも、黙って掃除をすることができる児童が増えてきた。 ・職員への毎月のアンケート（児童は「無言掃除をしよう」ができていないか）では、肯定的評価が4月の50%から、12月は74%へと向上した。 ・児童アンケート（そうじをだましている）では、肯定的評価が1学期末は78.4%、2学期末は75.6%と推移している。取組を通して、自分たちの掃除は、まだレベルアップができると思う児童が増えてきているためだと考えられる。 					

今後の展開『キーワード 継続・応用』

- ・全校朝会や各学級で、掃除の仕方について肯定的に評価したり、「そうじのプロ」に認定された児童が意識をもつことができるような声かけをしたりする。
- ・掃除時間中に、職員がこまめに見回って指導を加えるようにする。
- ・来年度以降は、1学期の早いうちに行うことや各学期に1回行うなどの検討をする。
- ・「あいさつ名人」など、他の取組に応用して生かすことを考える。

他校へのアドバイス『キーワード 継続・応用』

「そうじのプロ」の取組は、児童の意欲を高めるためには非常に有効である。期間中は、一言もしゃべらず、全児童が静かに丁寧に取り組むことができている。一方で、取組の期間以降に児童の意欲を維持させることには課題がある。児童に対してこまめに声かけ・指導をすることで、意欲の維持を図ることができるので、各担任を中心として全職員で取り組めば効果は大きいものであると考える。

また、今年度、「そうじのプロ」を応用して本校で取り組んだ「あいさつ名人」も効果が大きかった。やり方は「そうじのプロ」と同じようにして取り組んだ。取組の結果、児童が廊下等ですれ違う際には、あいさつができるようになってきた。「よい態度をほめる」ことで、児童の意欲の高まりを継続できていると考える。